

シリーズ わがまちの文化財へ13

国登録有形文化財

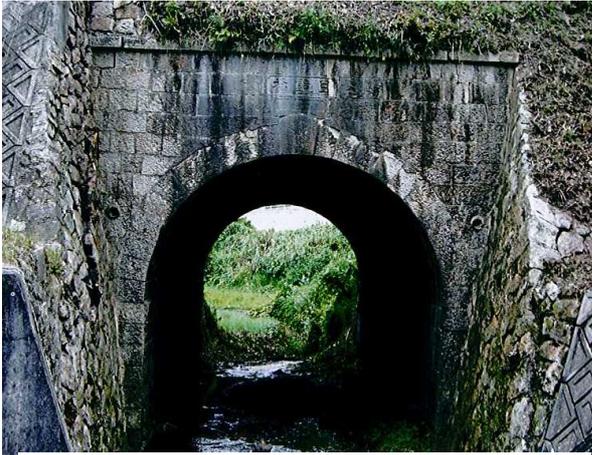
目鏡橋 めがねばし

平成22年3月19日登録

目鏡橋は、明治41年に造られた石造のアーチ橋です。橋の上部に盛土がされており、橋の上が直接の路面になっているわけではなく、河川にかかるトンネル水路です。目鏡橋というと、長崎市の2連アーチのものを思い浮かべますが、この目鏡橋は単アーチで、目鏡の名称がどうして用いられたのかは不明です。

目鏡橋は、長方形の石材の長い辺を縦方向（トンネルの通過方向）に使用した組み方がされており、ヨーロッパ系の技術の流れをくむことがわかっています。九州地方を除いては、明治以前の石造アーチは殆ど残っていません。この時代にはすでにコンクリートによる建築が始まっており、石造そのものが広島県内においても希少です。橋には、工事請負人のほか、石工の名前が刻まれていますが、そのほとんどが地元世羅町の人です。

優れた技術が、世羅の地に確かに受け継がれていたことがわかる貴重な遺産です。



小世良に残る目鏡橋。周辺は地元の有志により、草刈がされています。

シリーズ わがまちの文化財へ14

町指定文化財 吉祥寺五輪塔

平成元年6月2日指定

吉祥寺は、寺伝によると、はじめは世羅町大字長田の篠村にあったとされています。五輪塔は、元々本堂西側の林の中にあつたものを、現在地に移転安置されています。

一般的な五輪塔には、種子（梵字）などの文字が彫られていないか、正面にあたる方向だけに彫られているものがほとんどです。吉祥寺の五輪塔は、四門と呼ばれる四つの方向すべてに、それぞれの方向を示す種子が彫られた丁寧な造りです。水輪がやや下すぼまりなことや、空輪と風輪の境目がしつかりと食い込んでいることなどの特徴から、南北朝時代に造られたものと思われる。吉祥寺にはこのほかにも、鐘樓や薬師堂、本尊である聖観世音菩薩像などの町指定文化財があります。なかでも、本尊の聖観世音菩薩像は秘仏とされており、33年に一度の本開帳と間の17年目の半開帳だけの公開となっています。次回は平成39年が半開帳の年にあたります。



空輪
風輪
火輪
水輪
地輪

吉祥寺の五輪塔。地輪の下方は加工されておらず、土に埋まっていたことがわかる。